

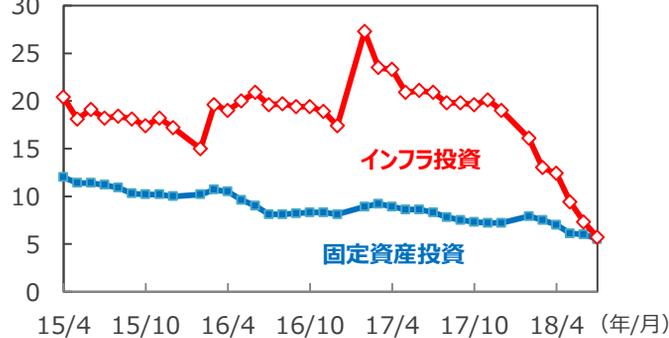
今日のトピック 減速傾向が続く中国経済（2018年8月）

政府の景気対策で減速ペースは緩やかなものに

ポイント1 固定資産投資は減速 インフラ投資の減速が続く

- 中国国家统计局は14日、主要経済指標を発表しました。1～7月の固定資産投資は前年同期比+5.5%と市場予想（ブルームバーグ集計、同+6.0%）を下回り、1～6月（同+6.0%）から伸び率が縮小しました。
- 内訳をみると、インフラ投資が同+5.7%となり、1～6月（同+7.3%）からさらに減速しました。地方政府の債務抑制により、インフラ投資の伸び鈍化が続いています。

【固定資産投資とインフラ投資】

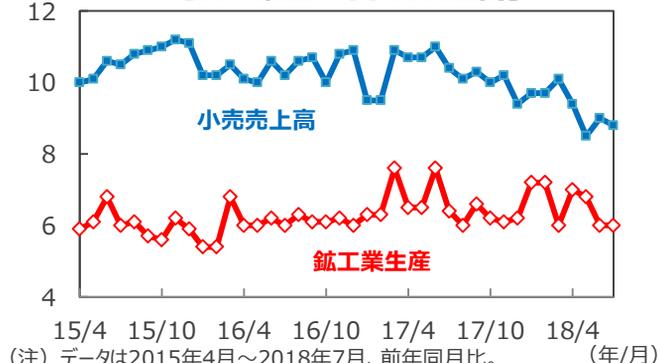


(注) データは2015年4月～2018年7月、年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 鉱工業生産は横ばい 小売売上高も減速

- 7月の鉱工業生産は前年同月比+6.0%と市場予想の同+6.3%を下回り、6月から横ばいでした。ただ、コンピューター、通信、その他電子機器が同+13.5%となるなど、IT関連の生産は全体の伸びを上回りました。
- 7月の小売売上高は前年同月比+8.8%と市場予想の同+9.1%を下回り、6月（同+9.0%）から減速しました。自動車や電気製品の販売が低迷しました。

【鉱工業生産と小売売上高】



(注) データは2015年4月～2018年7月、前年同月比。
1、2月は2月の年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政府の景気対策で減速ペースは緩やかなものに

- 中国共産党は7月31日に開催された中央政治局会議で、2018年下期に積極的な財政政策で景気を下支えする方針を決定しました。インフラ投資案件を資金面で支えることなどにより、米国との貿易摩擦拡大の影響に備え、景気安定を優先する姿勢を明らかにしたとみられます。また、金融政策については、中小企業を含む企業部門に対して市場への資金供給を増やす姿勢を示しました。
- 政府の景気対策により、今後の景気減速ペースは緩やかなものになると考えられます。IT関連の生産が高水準を維持するなど、産業構造の高度化が着実に進展していることも景気を支えると思われる。

ここもチェック! 2018年8月8日 中国株式市場の動向（2018年8月） 2018年8月7日 『ニューエコノミー』への移行が進む中国経済

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。